

平成30年度 第3回 大分市総合教育会議

日 時 : 平成30年11月26日(月)

13時30分～14時30分

場 所 : 大分市役所 議会棟3階 第5委員会室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

(1) 平成30年度大分市教育委員会行政視察について

(2) ICTを活用した教育について

(3) 英語教育について

3. 閉 会

- 1 目的 他県における学校等の現状や先進的な取組等を把握し、今後の教育委員会活動の充実に資する。
 2 期日 平成30年10月23日(火)、24日(水) 3 視察先 岐阜市 4 参加者 教育長、教育委員会委員5名、教育部長

	岐阜市	大分市
○人口	411,082人	478,952人
○小学校	46校(20,192人)	55校(25,747人)
○中学校	22校(10,115人)	28校(11,693人)

* H30.10.1現在

1 岐阜市立徹明さくら小学校<<ICTを活用した授業、プログラミング教育について>>

<<岐阜市の取組>>

○ICT環境の整備と活用

積極的なICT環境の整備を進め、平成28年にタブレット端末の整備(計4,100台)を行い、**中核市で最初に国の指標「3.6人に1台」を上回る「3.4人に1台」の教育用コンピュータ整備を達成する。**

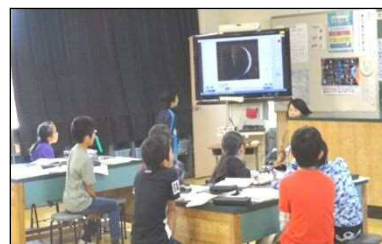
導入したタブレットは、撮影機能を使い、体育の技能習得や理科の実験観察等に活用するほか、電子黒板と連携させた協働的な学習や、調べ学習、プレゼン資料の作成等に活用し、ICTを活用した授業について、90%以上の児童生徒が「楽しい」「やる気が出る」「わかりやすい」と回答している。

○プログラミング教育の推進

平成32年度から小学校で全面実施となるプログラミング教育を平成29年度から全国に先駆けて全小学校で開始。**人型ロボット「Pepper」を学習ツールの核とし、プログラミングを通じて、論理的・創造的に思考し、課題を発見・解決する力の育成を図っている。**



タブレット端末の活用



電子黒板の活用



プログラミング教育

<<今後の大分市の取組>>

- 平成31年9月小中学校教育用コンピュータの更新に合わせ、プロジェクタ、実物投影機、学習者用PC、指導者用PC等を整備する。 ※4.4人に1台
- 全ての教員がICT機器を効果的に活用できるよう、計画的・効果的な研修及び指導を行う。
- 今年度指定したプログラミング教育先行実践校(小学校2校)の取組の成果と課題を検証し、指導案や教材の活用に係る検討を進め、全校に研究成果を還元するとともに、効果的な学習ツールについて、継続的に調査・研究を行う。

2 岐阜市立陽南中学校<<主体的・協働的な学びの場の創造について>>

<<岐阜市の取組>>

子どもの主体的・協働的な学びを推進する環境として、**可動式の机や椅子、ホワイトボード、タブレットPCなどを備えたアクティブ・ラーニングスペース「アゴラ」を各校に設置。**活動に応じて自由にレイアウトすることで、知的創造の場を醸成し、学習意欲の向上を図っている。

*アクティブ・ラーニング実践の場「アゴラ」

由来: 古代ギリシアのパルテノンの下で日々、ソクラテスやプラトンなどが議論を交わした場。



「アゴラ」での授業(国語)

<<今後の大分市の取組>>

教室レイアウトの工夫やICT機器等の効果的な活用などを通じて、子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けた環境づくりを進める。

3 岐阜市立中央図書館<<市立図書館の運営について>>

<<岐阜市の取組>>

平成27年に複合施設「みんなの森ぎふメディアコスモス」内に岐阜市立中央図書館を開館する。「ここにいることが気持ちいい」「ここにずっと居たくなる」「何度でも来たくなる」を合言葉に、本を通して「人」と「人」、「人」と「まち」がつながる、居心地のいい「滞在型図書館」をめざす。

○「子どもの声は未来の声」

図書館は子どもの育ちを末永く見守る場所であるとの考えから、館内では子どもの小さなざわつきを保護者とともに見守る。

○楽しい、ドキドキする書棚づくり

児童エリアの書棚を活用した「コスモス商店街」や職員の作成したPOP等、図書館に親しみをもち、本を手取る工夫を行う。

○子どもの育成

子ども司書の育成やわんこ・にゃんこカートによる学校巡回等の学校支援を行い、子どもの読書意欲の醸成を図る。

○本がたぐひと・まち

お寺やカフェなどに本棚を置き、みんなで共有する小さな図書館「ぎふまちライブラリー」を展開する。

※複合施設内のコンビニやカフェを利用し、図書館に長時間滞在する学生もいる。



「コスモス商店街」



「にゃんこカート」



みんなの森 めだこすもす



「ぎふまちライブラリー」

<<今後の大分市の取組>>

来館者へのサービス向上に向けて、来館者との対話を生む仕掛けや居心地のいい空間づくりを工夫するなど、市民図書館の更なる活性化を図る。

4 岐阜市教育委員会<<教職員サポートプラン等について>>

<<岐阜市の取組>>

平成30年2月に岐阜市の学校における働き方改革を推進するための具体的な取組を記した「**岐阜市教職員サポートプラン**」を策定。

○夏季休業期間における学校閉庁日の設定

- 夏季休業期間の8月4日から19日までの16日間を学校閉庁日として設定(土曜授業の振替休日を含む)
- 会議、研修(一部の研修は実施)、部活動指導等、通常業務は行わない。

○正確な勤務時間把握のためのタイムカード導入

- 平成30年5月より、タイムカードを導入し、正確で客観的な勤務時間管理を行っている。

<<今後の大分市の取組>>

岐阜市の取組を参考としながら、平成30年2月に策定した「大分市立学校における働き方改革推進計画」に基づき、より効果的な働き方改革を推進していく。

1 学校におけるICT機器等の整備について

○平成30年度以降の学校におけるICT環境の整備方針(文部科学省:平成29年12月)

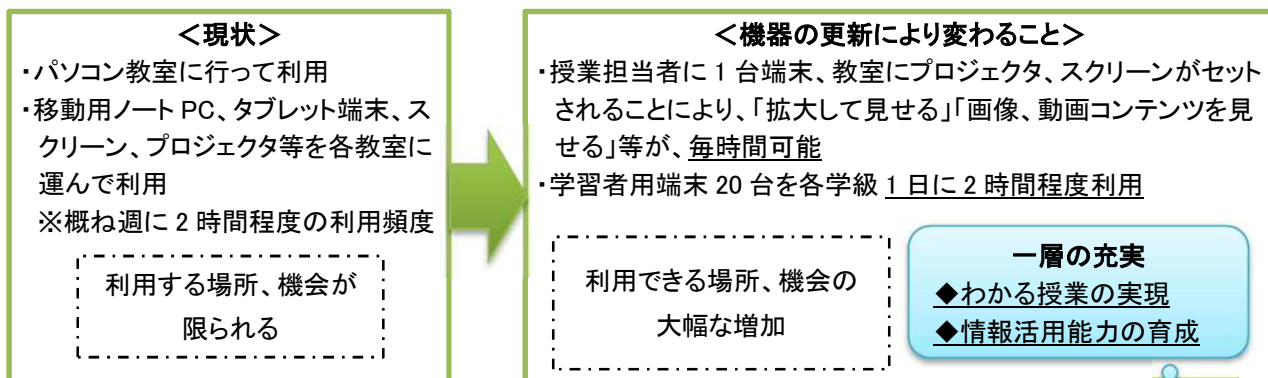
- | | |
|-------------------------|-------------------|
| ① プロジェクタ、大型モニター⇒常設 | ② 実物投影機⇒常設 |
| ③ 学習者用PC⇒3クラスに1クラス分 | ④ 指導者用PC⇒授業担当者に1台 |
| ⑤ 超高速インターネット・無線LAN⇒100% | ⑥ 充電保管庫の設置 |

○現状と平成31年9月以降の更新状況について

機器等	現状	平成31年9月以降(※)
① プロジェクタ・スライド式マグネットスクリーン	・各学校に2~3台	・各学級に1台(普通教室・特別支援教室・理科室) ・特別教室(理科室除く)1~3台
② 実物投影機	・各学校に1~2台	・3学級毎に1台(書画カメラ)
③ 学習者用PC	・パソコン教室40台 ・タブレット端末3学級毎に4台	・3学級毎に1セット(20台)(タブレット型端末)
④ 指導者用PC	・各学校2台(デスクトップ型PC) ・各学校3~18台(移動用ノートPC)	・授業担当者に1台(タブレット型端末)
⑤ 超高速インターネット・無線LAN	・無線LAN環境整備(WiFi機器台数制限、接続不良あり)	・無線WAN環境整備(機器台数の制限及び接続不良を解消)

※教育委員会事務局用(タブレット型端末)30台程度・・・指導主事等が研修等で使用
 ※学習者用タブレット型端末は、各学校の各フロアに設置する充電保管庫内に保管。教室での学習時、すぐに取り出すことができる。

○ICT機器等の整備による効果と今後の取組



<目指す教員の姿>

- 指導者用タブレットを一人1台配備することにより、教員のICT活用指導力の向上を図る。
- ICTを効果的に活用した授業実践を行うことにより、わかる授業を実現するとともに、児童生徒の情報活用能力を向上させる。

<教育委員会における取組>

- 大分市学校教育指導方針の重要課題と達成指標への位置付け
- 指導主事等によるICTを活用した指導・助言
- 教職員研修の充実
- 巡回訪問サポートの実施(ICT支援員等)
- ICT活用に係る校内研究の推進

期待される姿

主体的な学び

(例)視覚的に内容が捉えやすくなることにより、興味・関心が高まる



対話的な学び

(例)端末を効果的に活用し、グループで意見を共有したり、比較検討したりすることができる



深い学びの実現

2 プログラミング教育について

○先行実践校(野津原小学校・神崎小中学校)

①教材等の整備

≪タブレット端末≫



≪プログラミング教育関連教材≫



アーテック社
(スタディーノ)



ケニス社
(Mbot)

②取組状況

月日	野津原小
10/9	プログラミング教材研修
10/16~18	6年生 総合的な学習の時間(※A)
10/24	6年生 理科検証授業「電気の利用」(※B)
2/5	5年生 算数検証授業「B 図形(多角形)」(※C)

※A:6年生 総合的な学習の時間

- ・自動販売機や信号機の動きをフローチャート化
- ・実機を操作してその動きについて理解



アンラグドで
事象の整理



フローチャートの作成

※B:6年生 理科「電気の利用」

- ・光センサーを用いて効率的に電気を利用するプログラムを考える
- ・条件に応じてプログラム等が動作していることを理解



スタディーノで
プログラムの入力

※C:5年生 算数「B 図形(正多角形)」(3学期)

- ・図の作成等において、プログラミング的思考と数学的な思考の関係に気付く

③検証授業の考察

- ・子どもたちは、他の教科(家庭科等)でもフローチャート化することを学習しており、自分たちの考えを、分解、整理、構築というプログラミング的思考が養われてきている。
- ・実機を動作させながら、予想の動作と違っているところについて、班で相談しながら修正を行い、再度挑戦することで、思考を整理しながら再構築する部分が身に付いてきている。

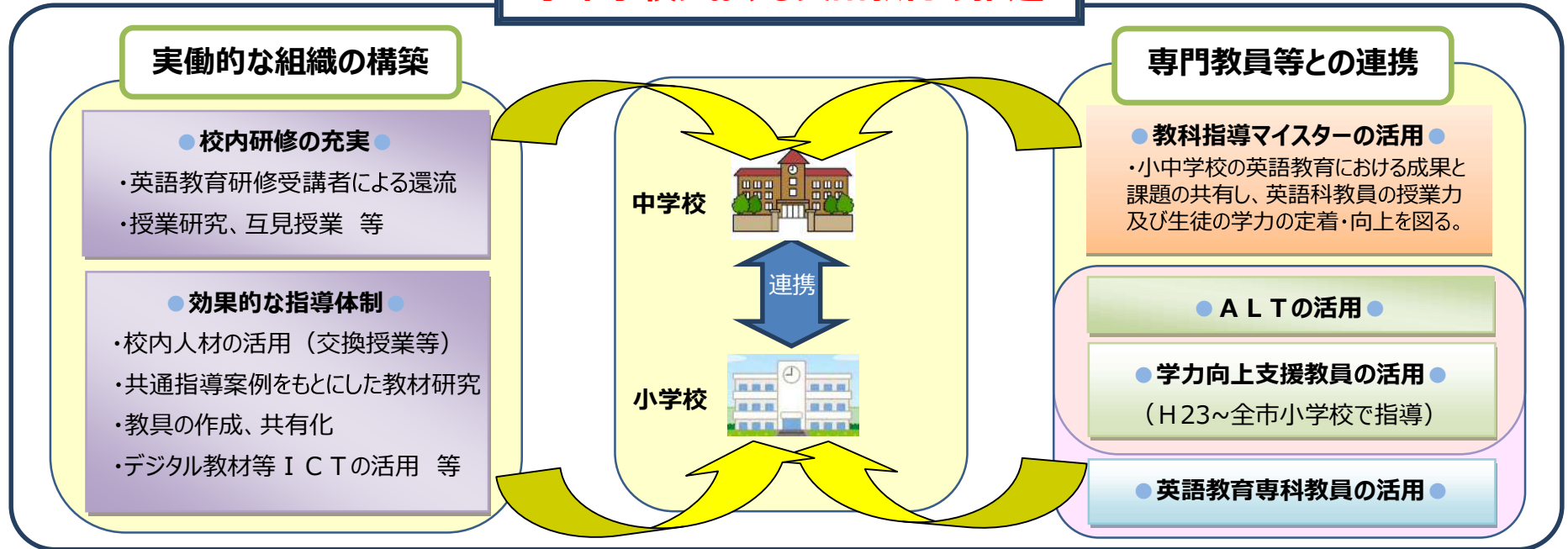
○来年度のプログラミング教育の推進について

- ①先行実践校は1年目の実績を生かしながら、全教科にわたり、プログラミング的思考を育む授業を研究していく。また、市内全小学校に取組の様子を公開し、情報の提供を行う。
- ②両実践校で行った実践について、教育委員会で考察、分析し、市内小学校向けのプログラミング教育スタートアップ授業と年間指導計画の作成例を提案する。(平成32年度 全小学校にて実施)
- ③教育センターから研修、研究用として、希望する学校への教材等の貸し出しを行う。

平成31年度 小学校英語教育の充実に向けて

※本資料において、「小学校」とは、小学校、義務教育学校（前期課程）を「中学校」とは、中学校、義務教育学校（後期課程）を指す。

小中学校における英語教育の推進



大分市教育委員会

(学校教育課英語教育推進室・大分市教育センター)

英語教育推進室の設置 (H30～)

平成32年度からの小学校高学年への英語科の導入及び小学校中学年における外国語活動の全面実施に向けて、市内全小学校に学校巡回訪問を実施し、英語教育に係る指導方法の更なる充実を図るとともに、小中学校における成果と課題を踏まえた授業改善を推進することを通して、小中学校間の円滑な接続を図りながら、本市英語教育の充実に資する。

外部人材の活用促進

- 外国語指導助手招聘事業 ●
学級担任を英語面でサポートするとともに生きた英語の提供、児童生徒のコミュニケーションへの意欲や学習に対する意欲の向上を図る。

● ALT派遣 ●

・英語に触れる機会の拡大・充実に向けて、26名の外国語指導助手を各学校に派遣

・教員に対して、授業で使う基礎的英語表現やアクティビティの研修等を実施



指導用教材の開発等

● スタンダード・パターン ●

「大分市小学校英語教育（第5、6学年用）スタンダード・パターン」（移行期間での第5、6学年用教材「We Can!1」及び「We Can!2」を用いた指導の際の授業づくりのポイント及び学習展開例のイメージ）の作成・配布

● 共通指導案例 ●

学力向上支援教員の作成による第3～6学年用新教材「Let's Try!1」、「Let's Try!2」、「We Can!1」、「We Can!2」それぞれの各ユニットの「共通指導案例」の配布

● 学校巡回・要請訪問 ●

英語教育に係る指導方法等の更なる充実を図るため、平成30年4月下旬より学校巡回訪問を学力向上支援教員と連携して、第3学年から第6学年に実施

● 研究推進校 ●

基礎学力向上研究推進校（判田小学校）
小中一貫教育推進校（丹生小学校、寒田小学校）

教職員研修等

● 英語教育研修 ●

H28年度より新たに4年計画で英語教育に係る4つの研修を実施

- 小学校英語教育還流研修 3日間
- 小学校英語教育基礎研修 2日間
- 中学校英語教育還流研修 5日間
- 中学校英語教育応用研修 2日間

● 授業実践動画配信 ●

・教育センターH P「T-LABO」による授業実践や授業のワンポイント動画配信



ICTの効果的な活用

【ICT機器等の整備 (H31.9月～)】

全ての普通教室にプロジェクター、スライド式マグネットスクリーン、デジタル教材インストール済パソコン（3年生以上）を配備

教科等指導力を十分に生かした「外国語活動及び英語科」の指導の実現

デジタル教材の効果的な活用による外国語活動及び英語科の授業の質の向上

- ・デジタル教材に収録された正確な発音による指導
- ・英語表現が使われる場面や目的等の設定により体験的な理解を促進

